

経済・金融 フラッシュ

鉱工業生産 08年5月： 景気後退局面入りが濃厚に

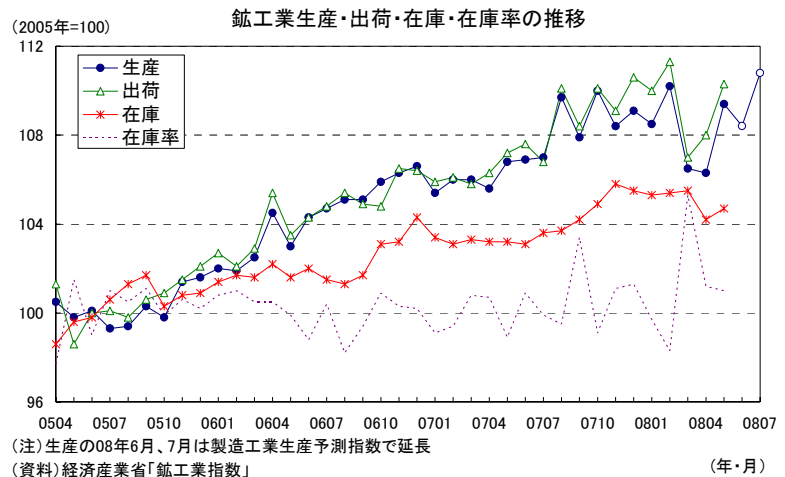
経済調査部門 主任研究員 斎藤 太郎

TEL:03-3512-1836 E-mail: tsaito@nli-research.co.jp

1. 生産指数は3ヵ月ぶりの上昇

経済産業省が6月27日に公表した鉱工業指数によると、5月の鉱工業生産指数は前月比2.9%と3ヵ月ぶりの上昇となり、ほぼ事前の市場予想通り（ロイター集計：前月比2.7%、当社予想は同2.2%）の結果となった。出荷指数は、前月比2.1%と2ヵ月連続の上昇、在庫指数は前月比0.5%と2ヵ月ぶりの上昇となった。

5月の生産を業種別に見ると、4月に前月比▲8.3%と大幅に落ち込んだ情報通信がその反動から同10.2%となったほか、輸送機械も前月比9.3%の高い伸びとなるなど、速報段階で公表される16業種中、12業種が前月比で上昇（4業種が低下）となった。



設備投資のうち、機械投資の一致指標である資本財出荷（除く輸送機械）は08年1-3月期に前期比▲3.9%の大幅低下となった後、4月が前月比0.3%、5月が同7.1%の上昇となった。ただし、4、5月の平均を1-3月期に比べると▲0.3%低い水準にあり、前年比では3月以降マイナスが続いている。1-3月期のGDP統計の設備投資（2次速報）は、前期比0.2%とかろうじて増加を維持したが、4-6月期は4四半期ぶりに減少となる可能性が高いだろう。

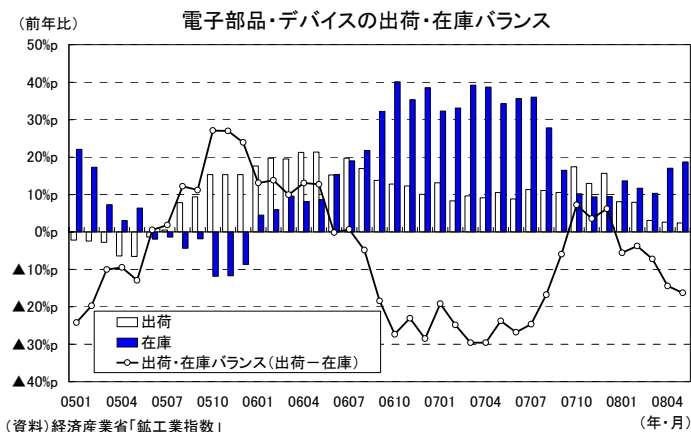
2. 4-6月期は2四半期連続で減産の見込み

電子部品・デバイスの在庫指数は前月比1.7%と3ヵ月連続で上昇し、前年比でも18.7%と積み上がり幅が拡大した（4月：同17.0%）。出荷指数は前月比3.5%と2ヵ月ぶりに上昇したが、前年比では2.4%（4月：同2.6%）と上昇幅が若干縮小した。この結果、出荷・在庫バランスは▲16.3%ポイントとなり、4月の同▲14.4%ポイントからマイナス幅が拡大した。

電子部品・デバイスは2008年入り後、在庫調整圧力が急速に高まっているが、携帯電話、液晶

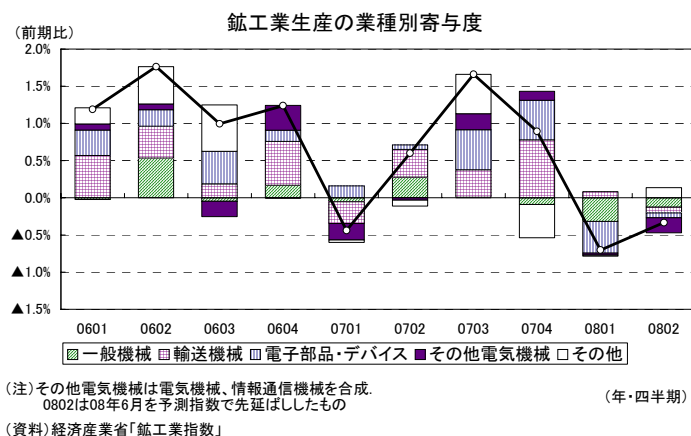
テレビ、デジタルカメラなど IT 関連の最終製品が多く含まれる情報通信機械の在庫が大幅に積み上がっている（5月：前年比16.4%）ため、在庫調整は進展しにくい状況となっている。

07年後半には生産の牽引役となっていた電子部品・デバイスは、1-3月期に前期比▲4.1%の大幅低下となったが、当面は生産の押し下げ要因となる可能性が高い。



製造工業生産予測指数は、6月が前月比▲0.9%、7月が同2.2%となった。5月までの生産指数を6月の予測指数で先延ばしすると、4-6月期の生産指数は前期比▲0.3%の低下となる。最近の鉱工業生産の実績値が予測指数の伸びを下回る傾向が続いていることも合わせて考えれば、4-6月期の鉱工業生産は1-3月期に続き前期比で減少となる可能性が高い。なお、4-6月期の生産が前期比で増加となるためには、6月が前月比でプラスとなることが条件である。

2 四半期連続の減産(前期比)となれば、現行の05年基準指数では景気後退局面にあった01年(1-3月期から10-12月期までの4四半期連続)以来となる。景気後退局面入りが濃厚になったと言えるだろう。



(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。